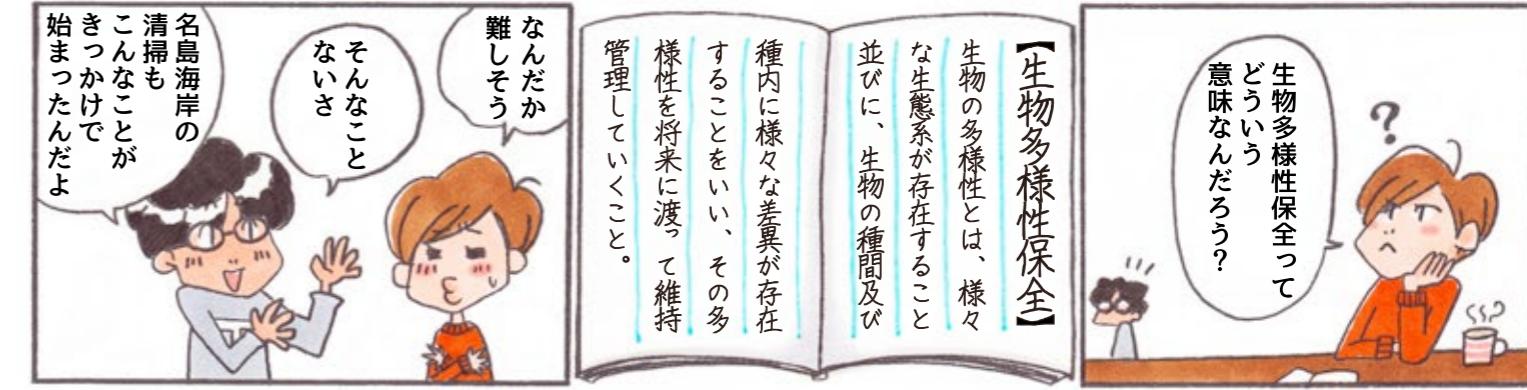
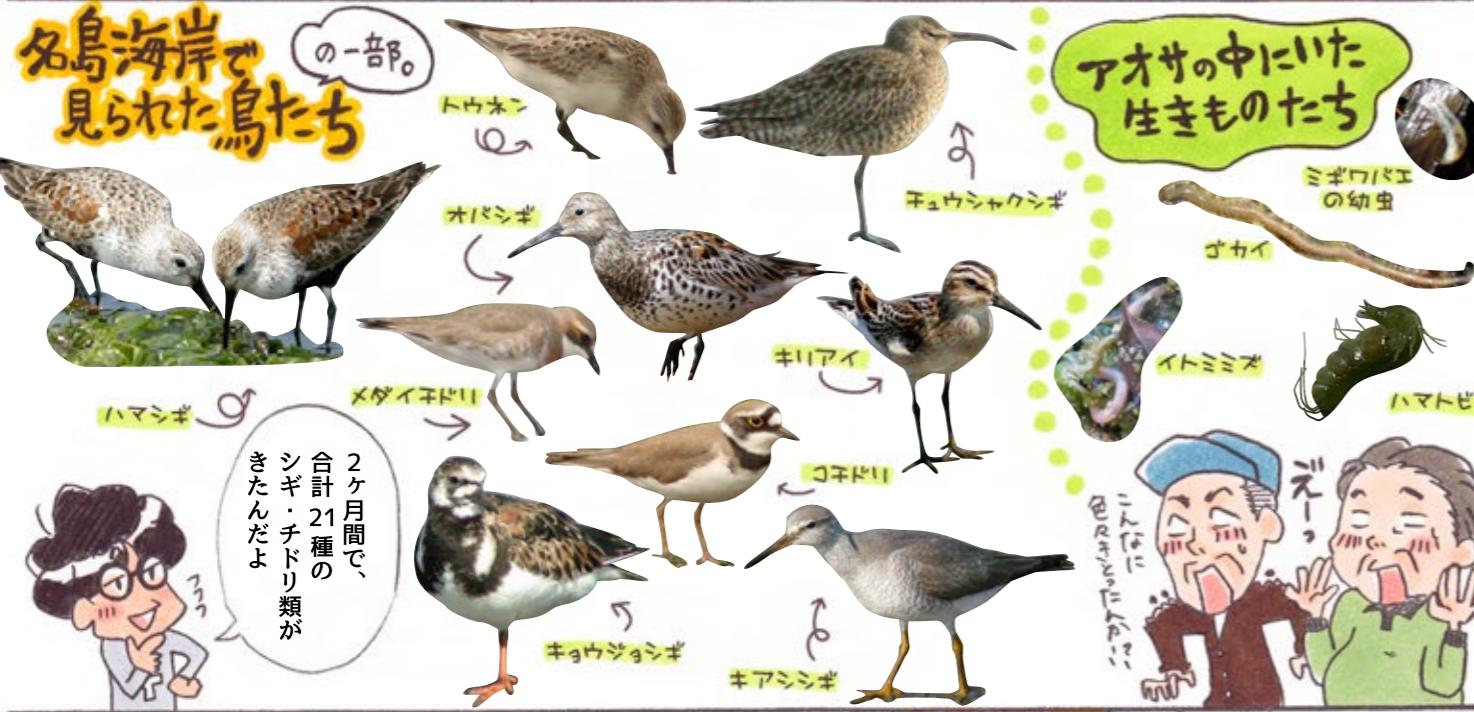


# わたしたちにもできる 生物多様性保全

名島海岸清掃活動を事例に





# 一わたしたちもごきる生物多様性保全 地域連携活動のアスメ



■このパンフレットの一部、または全てを著作権を超える形で割り無く複写・掲載・転載することを禁じます。

博多湾東部の多々良川河口には、かつて「名島潟」と呼ばれる大きな河口・前浜干潟が広がっていました。一九七〇年代以前、河口の干潟ではアカガレイやマテガイ、アサリ、カブトガニ、イイダコ、クルマエビなどが採れた豊かな干潟であったことが地域の人々から語られます。

残念ながら名島潟のほとんどは姿を消してしまいましたが、多々良川河口の右岸に残る名島海岸は、わずか2ヘクタールの小さな干潟ながらも、かつての名島潟の姿を今にとどめる貴重な干潟です。

海岸に漂着する海藻を、名島海岸の生物多様性の保全、改善に貢献できる形で管理する方法を、行政、地域、そしてNPOが一緒にになって考え、試行錯誤してみることが今、求められています。

今回、こうした取組の一歩として、地域とNPOで人の手による海岸の漂着海藻の清掃を行いました。



■わかつていてことだけど、海から流れくる漂着ゴミが多くて、水に浮きやすい発泡スチロールやビニール、ペットボトルといったゴミが多くかった。普段から地域の人たちも名島海岸の掃除をしないといけないなあと思っていたけど、思うだけで済んでしまっていて、年に数回の町内清掃の時にするだけだった。今のように、鳥を守るためにというハッキリした目的があつて、期間も2ヶ月と決まっていたので参加してみようという気持ちになつた。清掃していたら近くで鳥が餌を食べていたりしてやりがいを感じることができた。

また、一人では掃除をしたいと思っていてもなかなかできないが、参加者たちとお互い励まし合いながらやることで、頑張って続けることが出来た。こうした取り組みは良いことだから、ぜひ続けたい。

## 清掃活動 体験談



清掃に参加して下さった名島海岸(柳枝地区)の皆さん

■今まで海岸にゴミが多く散らかっていても、区役所などに電話するだけだったが、自分たちの手で掃除をすることで色々な発見があった。そして、今まで名島に住んでいて鳥の気持ちになつて海岸をきれいにしているなんて知らないで、渡り鳥といふ話を聞いて驚いた。今回の清掃も、海岸にこんなにたくさんの鳥がいたが、ハマシギみたいにこんなに小さな鳥がアラスカまで飛んでいくと鳥の気持ちになつて海岸をきれいにしているらしい。鳥がアラスカまで飛んでいくと、もっと大きな鳥だと思っていましたが、鳥に关心を持つようになつた。

これからも一人一人が支え合いながら清掃を続け、もつと参加する人が増えていくといい。



NPO法人「ふくおか湿地保全研究会」は、福岡市周辺の環境・野生生物調査を行い、その調査結果をもとに環境保全活動を行っているグループです。開発などにより失われてきた自然を補っていくための方策を、市民の皆さんと共に考え、行動していきたいと思っています。詳しくはHPをご覧下さい。

一緒に活動して下さる方を待っています。あなたも参加してみませんか？



湿地研 検索

2013 福岡市環境市民ファンド助成  
エコ発する事業の補助を受けて作成しています

